

インスリン注射手技研修がもたらす 薬剤師への影響

○飯田綾、森田肇、山村春香、毛利裕介、飯田誠之

株式会社 クリエイトエス・ディー



日本くすりと糖尿病学会 COI 開示

筆頭演者名：飯田 紗
(株式会社クリエイトエス・ディー)

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

背景・目的



2023年 インスリン注射手技研修

課題

インスリンデバイスの
自己学習の限界

新卒薬剤師2–3年目
中途採用薬剤師全対象
インスリンデバイス実技実習の導入

手技に対する不安の解消に効果あり

デバイスの体感
(におい・ボタンの感覚等)

2025年 インスリン注射手技研修

課題

- ・十分な練習機会が得られなかった
- ・模擬投与は空打ちまでであり穿刺までの流れを体験できなかった

手技実習の時間 増
皮膚模型の使用
災害時の対応、トラブルシューティング

調査

- 薬剤師の手技に対する不安解消や
行動変容への影響
- ・どのくらいの受講者が、どのように
不安を感じているのか
 - ・研修後、どのようなことに活かせたのか

«対象者»

2025年：入社2年目の薬剤師142名

2023年：入社1年目新入社員・中途入社社員(入社3年目以内)の薬剤師245名

«方法»

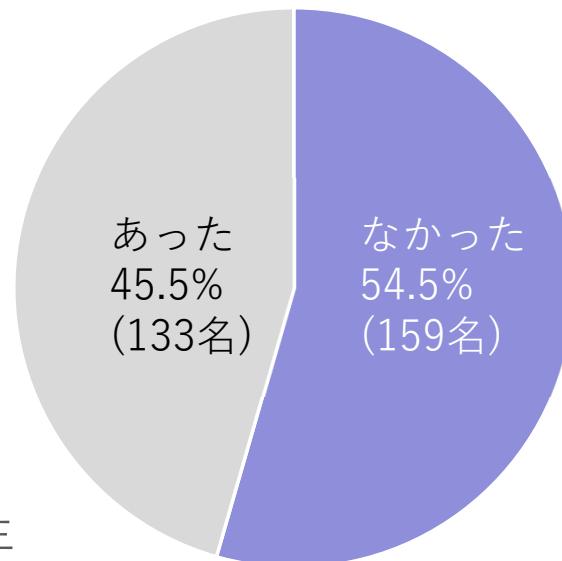
- ・デモ機・針・皮膚模型を使用しインスリン注射手技研修を実施
- ・2025年は2023年時の内容に加え災害時対応・デバイストラブルのトラブルシューティングを実施

«評価方法»

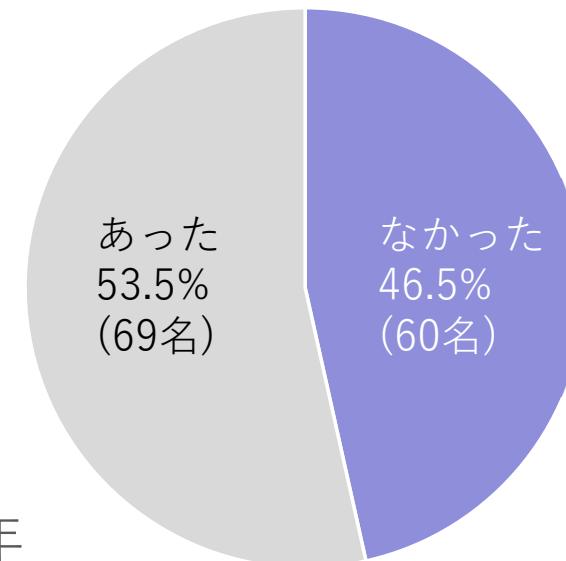
- ・研修直後アンケート(研修前の状況と研修の理解度)
- ・研修3か月後アンケート(行動変容)

研修前の状況

今回の研修以前にインスリンデバイスもしくはデモ機を使用した手技を学ぶ機会はあったか



N=292



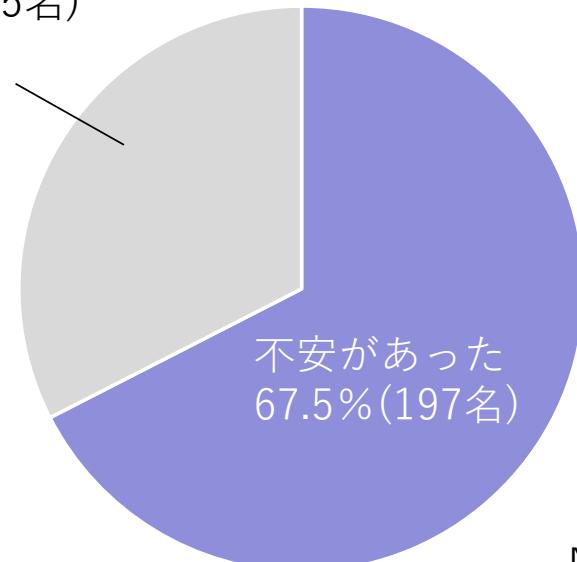
N=129

2023年・2025年共に約半数の受講者がデモ機を用いた学習機会がなかった。

研修前の状況

研修受講前に手技(服薬指導の説明)について不安であったか

不安はなかった
32.5%(95名)



不安はなかった
7.0%(9名)

どちらでもない
10.1%(13名)

不安があった
82.9%(107名)

どちらでもない
10.1%(13名)

不安はなかった
7.0%(9名)

不安があった
82.9%(107名)

2025年

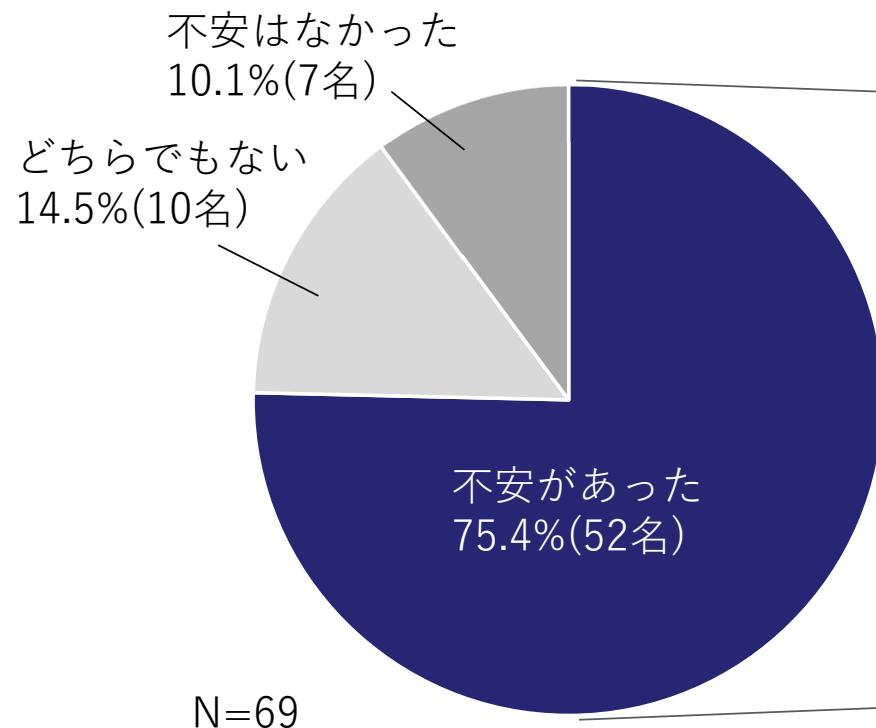
N=129

2023年・2025年共に6割以上の受講者が手技について不安を感じていた

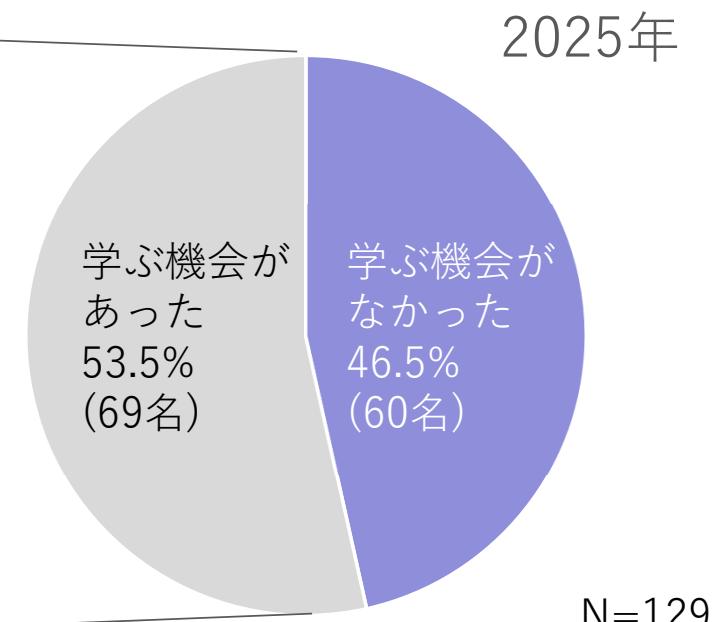
研修前の状況

 CREATE SDS
SUPER DRUG STORE

研修受講前に手技(服薬指導の説明)
について不安であったか



今回の研修以前にインスリンデバイスも
しくはデモ機を使用した手技を学ぶ機会
はあったか

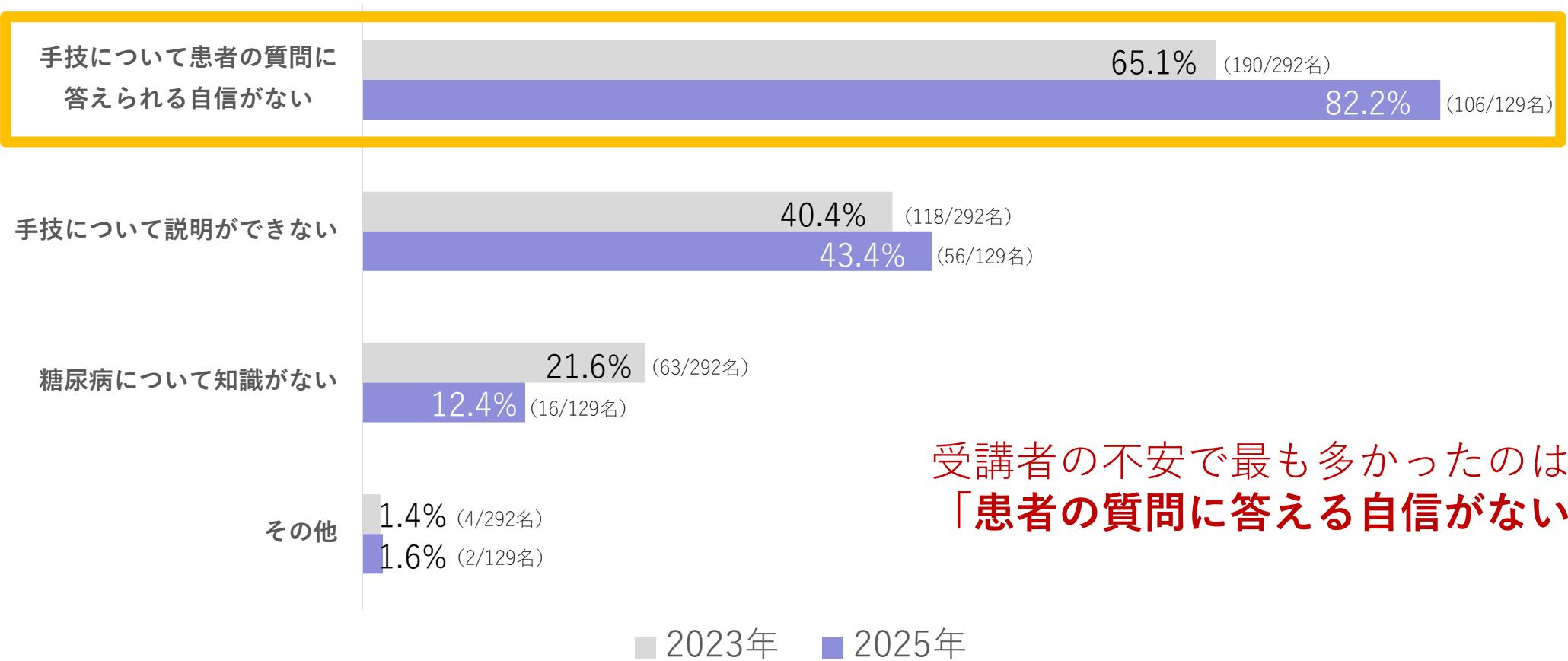


受講経験があったにも関わらず手技に対し不安と回答した受講者は75.4%(52/69名)

研修前の状況



研修受講前どんなことが**不安**だったか(複数回答可)



研修直後の変化



研修後どんな不安が解消されたか(複数回答可)

手技について患者の質問に
答えられる自信がない

74.7% (142/190名)
81.1% (86/106名)

手技について説明ができない

89.3% (108/121名)
89.3% (50/56名)

糖尿病について知識がない

37.5% (24/64名)

87.5% (14/16名)

その他

25.0% (1/4名)

50.0% (1/2名)

■ 2023年 ■ 2025年

不安を解消できた割合は23
年に比べ25年では6.4%増加

結果

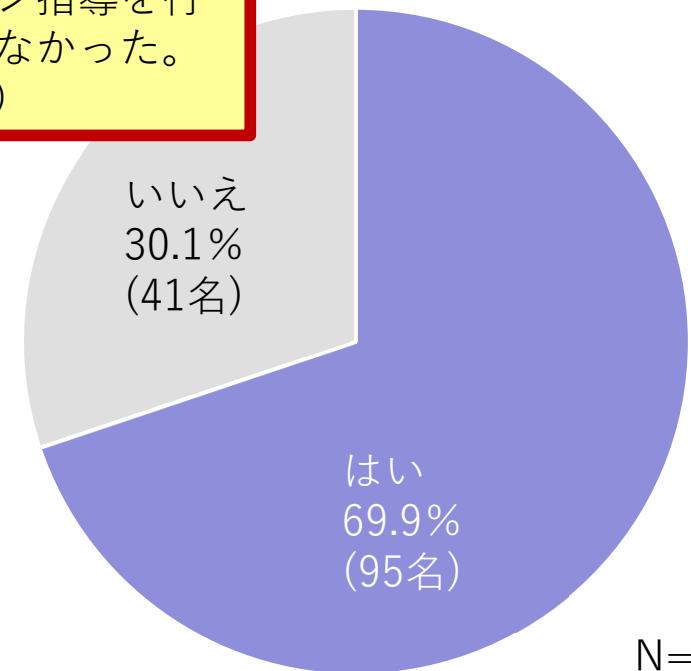
研修後

3か月後アンケート

研修受講後、以前より積極的にインスリン注射の指導に関わるようになったか



インスリン指導を行う機会がなかった。
(87.8%)



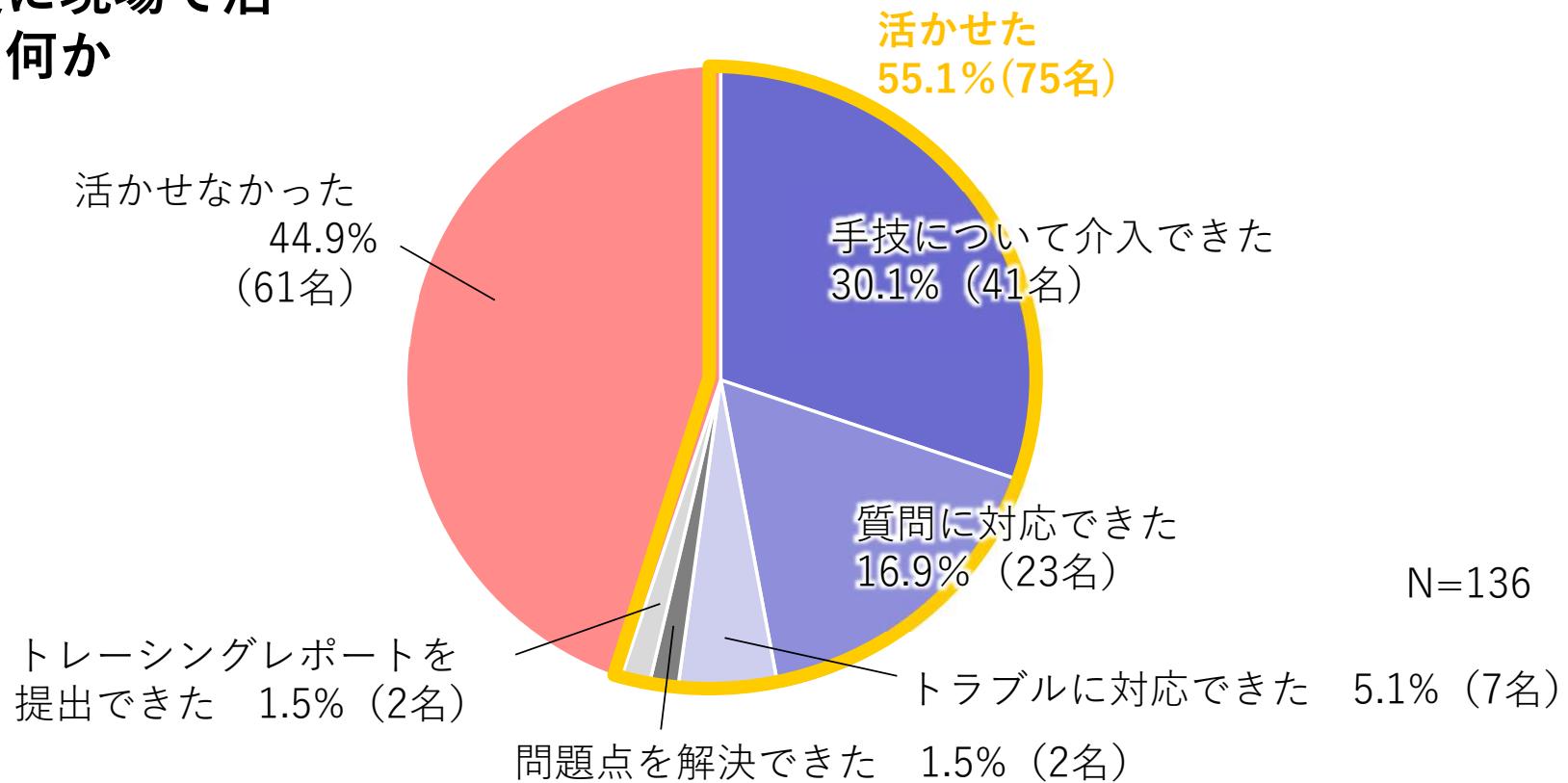
N=136

約7割の受講者が研修後に**積極的にインスリン注射の指導に関わるようになった**

結果 3か月後アンケート

 CREATE SDS
SUPER DRUG STORE

研修受講後に現場で活 かせた事は何か



半数以上の受講者が研修後に現場で活かせたと回答

結果 実践での活用状況



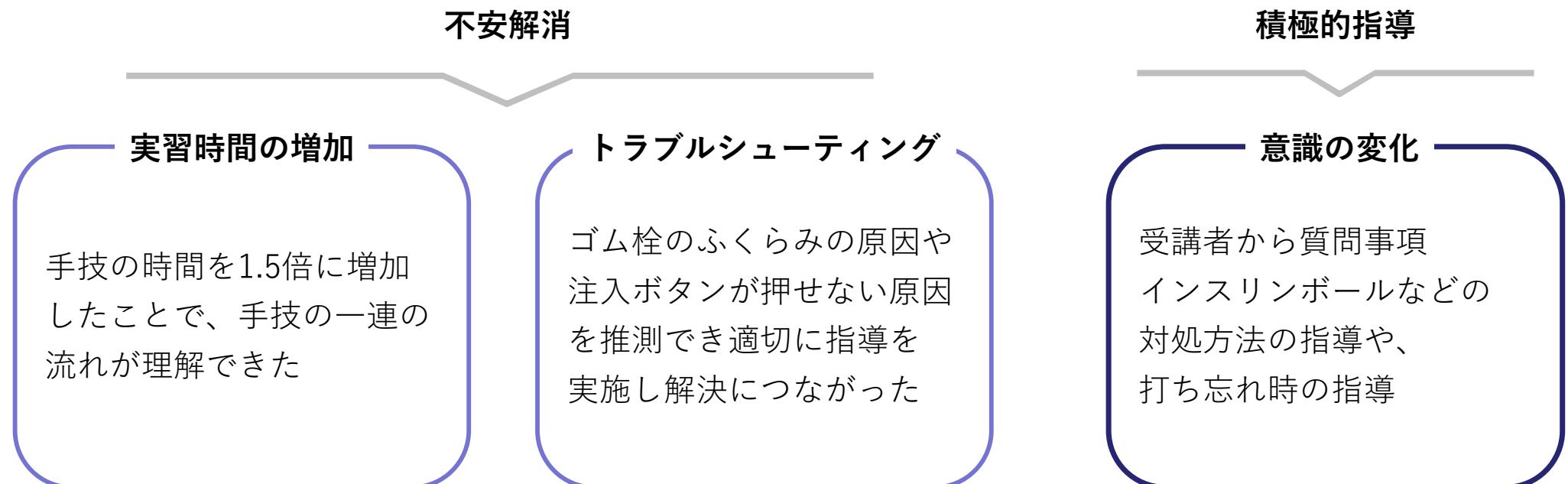
具体的活用例

項目	件数
保存方法の説明	9件
皮膚硬化についての確認	9件
サイトローテーションの指導	9件
空打ち	5件
針の装着方法	5件
トラブルシューティング	4件
災害時対応方法	1件

- ・研修で実施した内容を実際の服薬指導で活用
- ・トレーシングレポートや調剤後薬剤管理指導にもつながった

考察

- ・不安が解消されたことで積極的に指導に関わるようになった
- ・積極的に指導に関われなかつた方は機会がなかったからと考えられる



- ・実習時間を増やし、トラブルシューティングを研修に加えたことで**不安解消につながり、積極的に患者指導に関われるようになった**と考えられる
- ・受講者からはインスリンボールなどの対処方法の指導や、打ち忘れ時の指導に関する具体的な質問があがったことから、**受講者のインスリン注射指導に対する意識が深まった**と考えられる
- ・研修受講後、時間の経過とともに不安が再び生じる可能性あるため、**定期的にデバイスに触れる機会**の確保が重要
- ・今後も、受講者の意見を反映しつつ、**患者貢献につながるさらに質の高い研修**を構築していくきたい
- ・研修という限られた時間の中で伝えきれない情報は、情報サイトにて配信していくことで薬剤師の知識を構築していく必要がある